

タバココナジラムの土着天敵 コミドリチビトビカスミカメ



写真1 コミドリチビトビカスミカメ成虫



写真2 タバココナジラムによるシシトウの被害

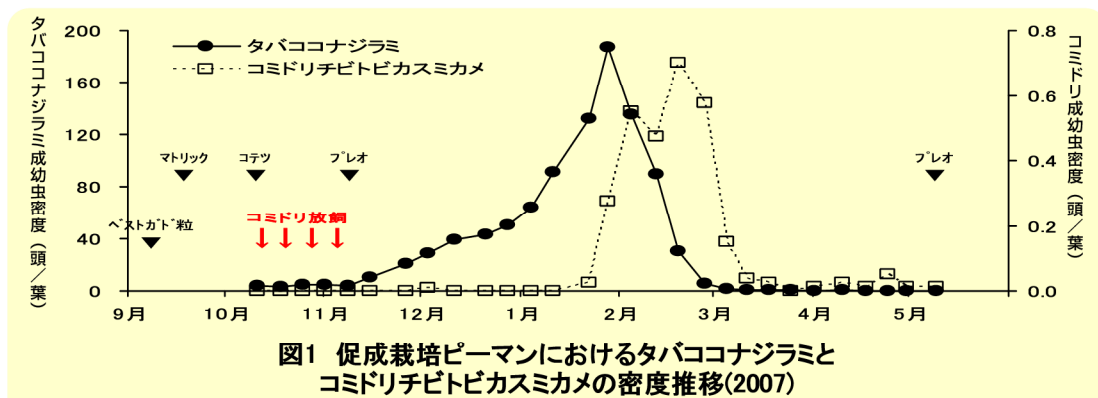


図1 促成栽培ピーマンにおけるタバココナジラムと
コミドリチビトビカスミカメの密度推移(2007)

注1)試験圃場は、ハウス開口部を防虫ネット(1mm目)で被覆し、定植時にベストガード粒剤を2g/株処理した。

2)コミドリを2007年10月18日、25日、11月1日、8日に1頭/株ずつ放飼した。

3)薬剤は、コミドリに影響の少ないと考えられる選択性殺虫剤を散布した。

4)供試品種: 'みはた2号'、定植日: 2007年9月11日、うね間: 180cm、株間: 60cm、最低管理温度: 18℃。

コミドリチビトビカスミカメ(写真1)は体長約2.7mm、キク科やマメ科など多くの植物上で生活するカスミカメムシで、以前からオンシツコナジラムを捕食することが知られています。しかし、タバココナジラムに対する捕食能力については知られていませんでした。

そこで、本種成虫にタバココナジラム4齢幼虫(蛹)を与え、捕食量を調べたところ、1日当たりの最大捕食量は雄で31.6頭、雌で38.7頭と、同じコナジラム類の捕食性天敵であるタバコカスミカメと同程度の高い捕食能力を示しました。また、本種を促成栽培ピーマンに放飼したところ、本種の密度

の上昇とともに、タバココナジラムの密度が急激に低下し、その後、5月まで低密度に抑えられたことから(図1)、タバココナジラムの捕食性天敵として有望であることが示唆されました。

本種は、アザミウマ類やアブラムシ類も捕食することが知られており、広範な害虫の防除に利用できる可能性があります。そこで、今後は他の害虫に対する捕食能力についても検討する予定です。

なお、本試験は農林水産省の委託研究「平成19年度先端技術を活用した農林水産研究高度化事業」で実施しました。

(昆虫担当 中石一英 088-863-4915)